

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16100001	超高速体感型シミュレーションシステムの研究	富田 眞治（京都大学・大学院情報学研究科・教授）	B
<p>医療応用などの高速シミュレーションを目標に掲げ、高性能コンピューティングの有効な応用分野の拡大を目指して、高速シミュレーションに必須の実時間性、インタラクティブ性、VR 技術などを技術統合する課題に挑戦したことは、大きく評価できる。GPU を用いた高速シミュレーションサーバーに関しては、ハードウェアの目標を達成している。しかしながら、(1) プラットフォームの利用環境(プログラミング言語、ソフトウェア開発環境)については、十分な記述がなく不十分である。(2) 10 編の論文が掲載されているジャーナルのインパクトファクターが低く、また、個別の成果発表の色合いが強い。研究全体の観点から、それらの関係が明示されていない。(3) 応用範囲が限定されていること自体も問題で、その拡張性が議論されていないことに加え、(4) そもそも高速シミュレーションの統合技術が実際に医療現場で試験的にも応用されていないと見受けられる。特に、目指した目標からは、実際のユーザーからの評価が重要であるにも関わらず、そこまで至ってない点は、ハードウェアの目標は達成しつつも、研究全体として、十分な成果が得られたとは言い難い。</p>			